

地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究 —利用頻度と利用期間による子どもの様子の変化—

〈研究代表者〉	碓氷 ゆかり	（関西学院短期大学教授）
〈共同研究者〉	清水 益治	（帝塚山大学教授）
	千葉 武夫	（関西学院短期大学教授）
	森 俊之	（仁愛大学教授）
	岡村 季光	（奈良学園大学教授）
	波田埜 英治	（関西学院短期大学教授）
	吉岡 眞知子	（東大阪大学名誉教授）
	成田 朋子	（名古屋柳城短期大学名誉教授）
	青井 夕貴	（仁愛大学准教授）
	中島 一	（（社福）あまのふたば会理事長）

研究の概要

本研究の目的は、保護者が地域子育て支援拠点事業を利用することが子どもに与える影響を質問紙調査と面接調査で明らかにすることであった。質問紙調査では西日本で地域子育て支援拠点事業を実施している保育所等の半数（337か所）に、施設長用、支援（保育）担当者用、保護者用の3種類の調査票を郵送した。107か所から回答があり、回収率は31.8%であった。

分析の結果、利用回数が多い子どもは利用を始めて間がない子どもよりも「同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる」「1つの遊びで、長時間遊んでいる」などの姿がよく見られること、逆に利用を始めて間がない子どもは利用回数が多い子どもよりも「遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い」「保護者から離れたがらない」などの姿がよく見られることが明らかになった。地域子育て支援拠点事業に子どもが来ることで、在園児にも「新たな人間関係が形成された」「新たな遊びや活動が展開した」などの点で良い影響があることが見出された。保護者から見ても「新たな人間関係が形成された」「新たな遊びや活動が展開した」「言葉や発話が促された」などの点で施設利用による子どもへの影響が大きいことが示された。

面接調査では5か所を訪問し、そのうちの4施設に所属する6名の保育者と6名の保護者と面接を行った。保育者への調査では、5領域の各領域にそって利用児に様々な変化が見られることが示された。保護者への調査では、利用回数が多いと、利用しているときの遊びに変化が見られるだけでなく、帰宅後の様子にもよい方向での変化が見られることも示唆された。

これらの結果は、地域子育て支援拠点事業と保育の専門性に関連づけて議論された。

キーワード：地域子育て支援拠点事業、子どもへの影響、支援（保育）担当者、保護者

I. 問題と目的

我々（青井ら，2024；岡村ら，2025）はこれまで地域子育て支援拠点事業の支援（担当）者や利用者（事業を活用する保護者）について明らかにしてきた。青井ら（2024）は一時保育、園庭開放、情報提供・相談担当者の資質を質問紙を用いて調査した。その結果、担当する事業によって資質の高さが異な

ること、いずれの事業でも資質が高いと困り度は低いこと、研修を受講することで資質は高まること、研修の受講が困り度を低める場合もあれば、高める場合もあることを明らかにした。

岡村ら（2025）は、地域子育て支援拠点事業を実施している事業所が利用者にとって「気軽な」場所になっていく過程、すなわち社会的居場所感が高ま

っていく過程を質問紙と面接を用いて調査した。その結果、質問紙調査では、利用者は、社会的居場所感の項目の得点に影響を与えるには約1年間の利用が必要であること、利用頻度が高くなるにつれて社会的居場所感の得点は高くなること、社会的居場所感には、利用理由が関係していることが明らかとなった。面接調査では、施設への安心感・受容感・気軽さの感覚は、利用初期の段階からそれぞれの感覚があること、人的環境（職員、他児、他児の母親、複合）や物的環境（自宅からの近さ・利便性の良さ、施設内の物品・構造）が「気軽さ」に関係していることが明らかになった。

ところで岡村・清水（2025）は、CiNiiで「地域子育て支援拠点事業」をキーワードにした際に検索された96本の論文・論考を分析した。これらの論文・論考は①事業そのものに焦点を当てた論文・論考44本、②支援者に焦点を当てた論文・論考17本、③利用者に焦点を当てた論文・論考35本の3つに分類できた。このうち岡村・清水（2025）は、①事業そのものに焦点を当てた論文・論考と、②支援者に焦点を当てた論文・論考のレビューを行った。また岡村ら（2025）は、③利用者に焦点を当てた論文・論考のレビューを行った。

しかしながら、これらの論文の中で、地域子育て支援拠点事業の子どもへの影響を述べた論考は、小野（2013）と小野（2015）の2本しかなかった。そこでこれらについて少し詳しく紹介する。

小野（2013）はA市にある地域子育て支援拠点事業を評価するために、利用する保護者に質問紙調査を実施した。調査にはサービス提供環境、スタッフの対応、主観的効果（親）、主観的効果（子）、期待との合致度、総合満足度を測る項目が含まれていた。このうち主観的効果（子）には、「子どもの成長に良い影響があった」「子どもにとって良い変化があった」「子どもにとって必要な場所である」「子どもの大切な遊び場である」「子どもの遊び仲間ができた」「きょうだいが一緒に居心地よく過ごすことができていた」の6項目が含まれていた。調査の結果、これらの項目の内、「子どもにとって良い変化があった」は、利用回数が4回以下よりも5回以上の方が、「とても思う」などの肯定的評価が多かった。

小野（2015）は、同じ調査で因子分析を行い、4つの因子を抽出した。そして「子どもの遊び仲間ができた」が子育ての仲間づくりへの貢献因子、「きょうだいが一緒に居心地よく過ごすことができてい

ることを見出した。

小野の研究はともに、利用者への調査の中で、子どもへの主観的効果として前述の6項目について、「1. 全くそう思わない」から「7. とても思う」の7件法で尋ねているだけで、子どもの過ごしている様子やその変化については何も調べていなかった。

本研究では、子どもの過ごしている様子を調べるために支援（保育）担当者にも調査する。保育所等で、かつこの事業を実施している事業所を対象とすると、利用する子どもだけでなく、当該園の在園児にも調査が可能である。そこで本研究では、地域子育て支援拠点事業を行っている保育所等を調査対象とした。

本研究の目的は保護者が地域子育て支援拠点事業を利用することが子どもに与える影響を質問紙と面接を手法として調べることである。子どもへの影響を明らかにすることは、この事業の今後の展開を考える上で不可欠であると予想できる。このように予想される理由は2つある。1つは、もし子どもに好ましくない影響があるなら、子どもの最善の利益に反する可能性が高まり、実施に注意が必要になるからである。もう1つは、もし子どもにより影響があるなら、さらに発展させることが期待されるからである。

質問紙を用いて子どもへの影響を調べるにあたり、本研究では森ら（2025）が用いた方法を援用する。森らは、こども誰でも通園制度（仮称）の試行事業を利用する子どもと当該事業を実施している園の在園児への事業の影響を調べるために、「新たな人間関係が形成された」「新たな遊びや活動が展開した」など10項目について「そう思う」の程度を事業担当者に尋ねている。そこで本研究でも、このように変化を尋ねる項目に対して「そう思う」の程度を支援（保育）担当者に尋ねることにした。

質問紙を用いて子どもへの影響を尋ねるためのもう1つの方法として本研究では、利用を始めて間もない子どもと、利用回数が多い子どもを比較する。具体的には、「同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる」や「1つの同じ遊びで、長時間遊んでいる」など、遊びの様子を尋ねる項目に対して、支援（保育）担当者に利用を始めて間もない子どもと利用回数が多い子どもを想定してもらい「よく見られる」程度の評定を求める。

質問紙を用いて子どもへの影響を調べるために、本研究では支援（保育）担当者だけでなく、保護者にも調査を依頼する。保護者への調査では「ひとり

で楽しく遊んでいる」などの利用時の様子、「施設での遊びをしたがる」などの帰宅後の様子、さらに「新たな人間関係が形成された」などの変化を尋ねる項目に対して評定を依頼する。

質問紙による調査だけでなく、本研究では面接調査も実施する。支援（保育）担当者に対する面接調査では、利用児と在園児への影響として保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域に関して、子どもの経験の変化を尋ねた。5領域をとりあげたのは、利用児が事業の後に保育所等を利用することになった場合に、経験の積み重ねが期待できるからである。

さらに本研究では支援（保育）担当者だけでなく保護者にも面接調査を実施する。最近の利用しているときの子どもの遊び、利用し始めた頃の子どもの遊び、最近の帰宅後の様子、利用し始めた頃の帰宅後の様子、育ちにおける変化について尋ねた。これらを探ることで質問紙で捉えきれなかった、事業の子どもへの影響を重層的に調べることにした。

II. 調査票調査

1. 方法

（1）調査対象

滋賀県から沖縄県までの西日本で、保育所等において地域子育て支援拠点事業の実施園を対象とした。自治体等のホームページで地域子育て支援拠点事業の実施園を検索し、住所が特定できた684か所のうち、半数の342か所を対象とした。

調査票は1園あたり施設長用1部、支援（保育）者用1部と、保護者用3部を郵送依頼する方法で2025年10月23日に発送した。発送したうち、5か所は郵便が未達であったため、337か所を調査対象とした。

調査期間は2025年10月25日から11月14日とした。2025年12月2日までに107か所から回答があった。回収率31.8%であった。

無回答を除き有効とみなした調査票は、施設長用が103部、支援（保育）者用が105部、保護者用が273部であった。

（2）調査内容

施設長用の質問票は、①施設の利用定員、在園児総数、②施設の運営主体（6項目を設定）、③施設の職員数、④実施事業（12項目を設定、複数回答可）、⑤地域子育て支援拠点事業に携わっている職員数、⑥拠点事業の活動内容（6項目を設定、各

項目の程度について“ない”～“多い”の4件法）、⑦親子の交流内容（5項目を設定、対になる内容を提示し、どちらの内容にどの程度あてはまるかを4件法で選択）、⑧拠点事業利用の子どもと通常保育の子どもとの交流の機会（7項目を設定、複数回答可）、⑨子育て親子の交流の場の利用者数（月間延べ利用者数について6項目を設定）、⑩子育てに関する相談件数（月間延べ相談件数について7項目を設定）、⑪子育てや子育て支援に関する講習等（1か月間の回数について7項目を設定）、⑫補助金の加算事業として行っている取組（8項目を設定、複数回答可）について尋ねた。

支援（保育）者用の質問票は、①利用児の様子（利用を始めて間もない子どもと利用回数の多い子どもについて10項目を設定、“全く見られない”～“よく見られる”の6件法）、②利用児や在園児の影響（利用児と在園児について10項目を設定、“全くそう思わない”～“とてもそう思う”と“わからない”の5件法）、③保有資格（7項目を設定）、④幼児教育・保育業務経験年数、⑤幼児教育・保育業務担当経験（“0歳児担当～5歳児担当”、“主任（主幹）”、“一時保育”、“子育て支援”、“フリー”、“いずれも担当したことがない”の11項目を設定、複数回答可）、⑥拠点事業の業務時間（1週間あたりの通算時間）、⑦拠点事業の経験年数、⑧過去1年で受講した研修回数（園内研修・園外研修の各受講回数）、⑨「地域子育て支援拠点事業」研修受講有無、⑩キャリアアップ研修受講有無（9項目を設定、複数回答可）、⑪仕事への「やりがい」（資質向上意欲のきっかけ）（10項目を設定、“全く感じない”～“非常に感じる”、“経験したことがない”の7件法）について尋ねた。

保護者用の質問票は、①利用開始時期、②利用頻度（1か月の利用回数）、③施設利用の理由（17項目を設定、“全くそう思わない”～“非常にそう思う”の6件法）、④子どもの施設利用時の様子（6項目を設定、“全くあてはまらない”～“非常によくあてはまる”の6件法）、⑤子どもの帰宅後の様子（8項目を設定、“全くあてはまらない”～“非常によくあてはまる”の6件法）、⑥施設利用による子どもへの影響（10項目を設定、“全くそう思わない”～“とてもそう思う”の4件法）、⑦回答者の年齢、⑧施設を利用している子どもの年齢、⑨子育てを助けてくれる人物（6項目を設定、複数回答可）、⑩子育て支援に関する希望（10項目を設定、複数回答可）について尋ねた。

表 1－1 運営主体

	回答者数	割合(%)
1. 公営	25	24
2. 社会福祉法人	69	67
3. 学校法人	4	4
4. 株式会社	0	0
5. 特定非営利活動法人(NPO)	1	1
6. その他	3	3
無回答	1	1

表 1－2 施設の職員数

	N	有資格者		その他の職員	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
常勤	96	13.8	7.4	2.1	2.6
非常勤(フルタイム)		3.1	4.0	0.9	1.8
非常勤(パートタイム)		6.4	6.5	3.1	3.5

(3) 調査手続

依頼文書と共に、封筒に入った調査票 5 部、提出先案内掲示物及び返信用封筒を 2025 年 10 月 23 日に発送した。調査票の末尾には、調査票回答後封筒に入れ封をした上で指定の場所に提出する旨示した。依頼文書には、調査票配付にあたり施設内で任意に父母 3 人を選択し配付する、回収にあたり調査票を回収する場所の設定をする、回答された調査票は封筒の中身を開けずにそのまま返信用封筒に入れ返送する、配付しなかった調査票もそのまま返信用封筒に入れ返送する、という形で示した。締め切りを 2025 年 11 月 14 日としたが、郵便事情等を勘案し、2025 年 12 月 2 日までに到着したものを分析対象とした。

(4) 倫理的配慮

調査票への回答にあたっては、無記名で個人が特定されないこと、データは厳重に管理し本研究以外に使用しないこと、研究終了後は 10 年間保管し、データ消去・調査票の溶解処理等適切な方法で廃棄すること、調査の一部またはすべてに回答しなくても不利益を受けることは決してないこと、得られたデータをもとに学会発表や論文公表を行う予定であるが施設や個人を特定する形で公表することはないこと、利益相反は存在しないことを書面にて説明し、調査への回答及び調査票の提出をもって研究協力に同意したこととした。なお、本研究は日本保育協会保育科学研究所の倫理委員会で審査され、2025 年 3 月 18 日付で承認を得た。

2. 結果

(1) 施設長用

①施設の利用定員、在園児総数

「貴施設の通常の幼児教育・保育事業の利用定員及び在園児総数についてお答えください」として、それぞれの人数の解答欄を設けた。利用定員は 9 施設、在園児総数は 7 施設が未記入であった。利用定員の平均値(標準偏差)は 116.8 (56.8) 人であり、在園児総数のそれは 98.7 (51.6) 人であった。分布を見ると、利用定員は 0 名から 300 名までであり、最も度数が多かったのは 90 名で、10 施設が該当した。在園児総数は 0 名から 223 名までであり、最も度数が多かったのは 0 名で 3 施設が該当した。

②施設の運営主体

「貴施設の運営主体について、選択肢からお選びください。」として 6 つの選択肢を提示した。その結果が表 1－1 である。最も多かったのは社会福祉法人、次いで公立であった。他は 5 % 以下であり、株式会社はなかった。

③施設の職員数

「貴施設で働いている職員数について、雇用形態別、職種別にお答えください。」として、有資格者(保育士、幼稚園教諭、保育教諭等)、その他の職員の別に、常勤、非常勤(フルタイム)、非常勤(パートタイム)の人数を尋ねた。この設問に全く無回答であった 7 施設の回答を除き、無回答の場合はその人数が 0 名であると想定し、平均値等を求めた結果が表 1－2 である。この値に基づいて算出した

表1－3 実施している事業

	回答者数	割合(%)
1. 一時保育	68	66.0
2. 休日保育	6	5.8
3. 育児相談	80	77.7
4. 園庭開放	71	68.9
5. 保育体験	26	25.2
6. 子育て相談	77	74.8
7. 子育てサークル	25	24.3
8. 病児保育	10	9.7
9. 放課後クラブ	21	20.4
10. 誰でも通園制度	0	0.0
11. 出張広場	16	15.5
12. その他	10	9.7

ところ、全職員数の平均は29.4人、うち有資格者は23.3人、その他の職員は6.2人であった。また有資格者とその他の職員の合計の平均は、常勤が15.9人、非常勤（フルタイム）が4.0人、非常勤（パートタイム）が9.5人であった。

その他の内容として資格名の自由記述を求めたところ、常勤では43施設が回答した。多い順に、栄養士が26施設、調理師が18施設、看護師が14施設、管理栄養士が11施設であった。非常勤（フルタイム）では21施設が回答した。多い順に調理師が8施設、子育て支援員が5施設、栄養士が5施設であった。非常勤（パートタイム）では32施設が回答した。多い順に調理師が16施設、看護師が13施設であった。

④実施事業

「貴施設では下記の事業を実施していますか。当てはまるものすべて選んでください。」として12の

選択肢を設けた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表1－3である。最も多かったのは育児相談（77.7%）、次いで子育て相談（74.8%）、園庭開放（68.9%）、一時保育（66.0%）と）続いていた。

⑤地域子育て支援拠点事業（以下、拠点事業）に携わっている職員数

「地域子育て支援拠点事業に携わっている職員数についてお尋ねします。専ら事業に携わっている職員と他の業務と兼任している職員で分けて、勤務形態・保有している資格種別ごとに、実人数を記入してください。」として表1－4の数値を空欄にした表を提示した。③の設問にならい、この設問に全く無回答であった1施設の回答を除き、無回答の場合はその人数が0名であると想定し、平均値と標準偏差を算出した。

全体的にそれほど多い人数ではない。平均値の総合計を算出すると3.6人であった。平均値と比べて標準偏差が大きいことが見て取れる。このことについて実際の数値を見ると、専任、常勤の有資格者では26人、兼任、常勤の有資格者では11名という回答があった。

その他の資格を調べたところ、専任の常勤では12施設から回答があった。うち8名は子育て支援員であった。兼任では4施設から回答があった。いずれも子育て支援員であった。

⑥拠点事業の活動内容

「地域子育て支援拠点事業の内容についてお尋ねします。次の活動内容は、どの程度取り入れていますか。その程度について教えてください。」として「1 ない 2 やや少ない 3 やや多い 4 多い」の4つの選択肢を提示した。その結果が表1－5であ

表1－4 拠点事業に携わっている職員数の平均（標準偏差）

	N	専任		兼任	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤
保育士、幼稚園教諭、保育教諭	102	1.4(3.2)	0.9(1.2)	0.4(1.2)	0.2(0.5)
その他の資格()		0.1(0.3)	0.2(0.6)	0.0(0.2)	0.0(0.2)
資格なし		0.1(0.3)	0.3(0.6)	0.0(0.1)	0.1(0.3)

表1－5 拠点事業における各活動内容の程度

	N	各選択の割合(%)				平均値	標準偏差
		1 ない	2 やや少ない	3 やや多い	4 多い		
体を動かす活動(運動遊びなど)	101	0.0	31.1	52.4	14.6	2.8	0.7
音楽系の活動(歌を歌うなど)	101	1.0	39.8	41.7	15.5	2.7	0.7
見て楽しむ活動(絵本を読むなど)	102	0.0	11.7	63.1	24.3	3.1	0.6
製作をする活動(お絵かきなど)	99	0.0	22.3	47.6	26.2	3.0	0.7
育児相談	100	0.0	27.2	42.7	27.2	3.0	0.8
子育てサークル	99	40.8	23.3	17.5	14.6	2.1	1.1

表 1－6 親子の交流内容

	N	各選択の割合(%)				平均値	標準偏差
		1	2	3	4		
自由に活動することが多い(1) ～設定されたプログラム活動が多い(4)	99	24.3	37.9	28.2	5.8	2.2	0.9
保育者からの声かけが少ない(1) ～保育者からの声かけが多い(4)	100	2.9	11.7	48.5	34.0	3.2	0.8
少人数での活動が多い(1) ～大人数での活動が多い(4)	100	21.4	47.6	24.3	3.9	2.1	0.8
動きが小さい活動が多い(1) ～動きが大きい活動が多い(4)	97	10.7	46.6	33.0	3.9	2.3	0.7
親子一緒に活動することが多い(1) ～親子別々に活動することが多い(4)	100	62.1	15.5	12.6	6.8	1.6	1.0

表 1－7 交流の機会として選ばれた割合

	回答者数	割合(%)
1. 朝夕の合同保育	4	3.9
2. ホールや園庭、プール等での遊び場面	45	43.7
3. 散歩	15	14.6
4. 給食・食事の場面	7	6.8
5. 行事やイベント	59	57.3
6. その他	7	6.8
7. 交流の機会は設けていない	21	20.4

る。

各選択の割合(%)を見ると、「子育てサークル」は「1 ない」が40%を超えていた。「音楽系の活動(歌を歌うなど)」も「1 ない」の回答があった。4段階の評定なので、中間の値は2.5である。そこでこの値と平均値の差を検定したところ、いずれも平均値と有意差があった。「子育てサークル」は平均値より有意に小さな値であったが、他はいずれも2.5よりも有意に大きな値であった(「音楽系の活動(歌を歌うなど)」のみ $p<.01$ 、他は $p<.001$)。

⑦親子の交流内容

「貴施設での子育て中の親子の交流内容について、次の左右の選択肢のどちらにより当てはまりますか。活動の時間数や利用者数などを総合的に考えて全体的な印象でお答えください。」として、解答欄の左右に「自由に活動することが多い」と「設定されたプログラム活動が多い」、「保育者からの声かけが少ない」と「保育者からの声かけが多い」、「少人数での活動が多い」と「大人数での活動が多い」、「動きが小さい活動が多い」と「動きが大きい活動が多い」、「親子一緒に活動することが多い」と「親子別々に活動することが多い」を示し、「左にあてはまる」と「右にあてはまる」として間を4段階にして評定を求めた。その結果が表1－6である。

各選択の割合(%)を見ると、「自由に活動する

ことが多い」と「設定されたプログラム活動が多い」、「少人数での活動が多い」と「大人数での活動が多い」、「動きが小さい活動が多い」と「動きが大きい活動が多い」、「親子一緒に活動することが多い」と「親子別々に活動することが多い」では「1」「2」が多く、「保育者からの声かけが少ない」と「保育者からの声かけが多い」では「3」「4」が多いことがわかる。⑥と同様に2.5と平均値の差を検定したところ、「自由に活動することが多い」($p<.001$)、「保育者からの声かけが多い」($p<.001$)、「少人数での活動が多い」($p<.001$)、「動きが小さい活動が多い」($p<.05$)、「親子一緒に活動することが多い」($p<.001$)ことが明らかになった。

⑧拠点事業利用の子どもと通常保育の子どもの交流の機会

「拠点事業利用の子どもと通常保育の子どもの交流の機会を設けていますか。一緒に行っている活動として当てはまるものすべてに○をつけてください。」として7つの選択肢を用意した。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表1－7である。「行事やイベント」は55%以上、「ホールや園庭、プールなどでの遊び場面」は40%以上の施設が選んだ。しかし「交流の機会を設けていない」も20%であり、5分の1の施設は交流の機会がなかった。

⑨子育て親子の交流の場の利用者数

表 1－8 子育て親子の交流の場の利用者数

	回答者数	割合(%)
ア 50人未満	30	29.1
イ 50人以上100人未満	16	15.5
ウ 100人以上300人未満	41	39.8
エ 300人以上500人未満	6	5.8
オ 500人以上1000人未満	5	4.9
カ 1,000人以上	1	1.0

表 1－9 子育てに関する相談件数

件数	回答者数	割合(%)
0	1	1.1
1－5	43	46.7
6－10	17	18.5
11－15	6	6.5
16－20	6	6.5
21－25	1	1.1
26－	18	19.6

表 1－10 子育てや子育て支援に関する講習等の回数

回数	回答者数	割合(%)
0回	9	8.7
1回以内	47	45.6
2回	13	12.6
3回	6	5.8
4回	5	4.9
5回	2	1.9
6回以上	7	6.8

表 1－11 補助金の加算事業の取組

	回答者数	割合(%)
1. 地域の子育て支援活動の展開を図るための取組（一時預かり等）	47	45.6
2. 出張ひろばの開設	19	18.4
3. 高齢者や地域学生等、地域の多様な世代との交流	30	29.1
4. 地域の団体と協働して伝統文化や習慣・行事を実施し、親子の育ちを支援する取組	22	21.4
5. 地域の子育て支援の発掘・育成を継続的に行う取組	24	23.3
6. 利用したくてもできない家庭に訪問支援を行う等、地域とのつながりを持たせる取組	10	9.7
7. 障害児、多胎児のいる家庭など、配慮が必要な子育て家庭等への支援	16	15.5
8. 休日における育児参加促進のための講習会の実施	2	1.9

「子育て親子の交流の場の利用者数についてお尋ねします。月間延べ利用人数を以下の内から1つ選んで○をつけてください。」として6つの選択肢を示した。その結果が表 1－8 である。100人以上300人未満が約4割であったが、50人未満も3割程度あった。

⑩子育てに関する相談件数

「子育てに関する相談の件数についてお尋ねします。月間延べ相談件数をお書きください。」としておおよその数値を書いてもらった。11の施設は無回答であった。0件の施設もあったが、最も多い施設は114件であり、100件という回答も2施設あった。その分布を示したものが表 1－9 である。1～5件が最も多かった。

⑪子育てや子育て支援に関する講習等

「子育てや子育て支援に関する講習等についてお尋ねします。講習等はどの程度の頻度で開催していますか。月単位でお答えください。」と尋ねて、1

か月間のおおむねの回数を尋ねた。その結果が表 1－10 である。1回以内（年1回～年4回の回等を含む）が最も多かった。

⑫補助金の加算事業として行っている取組

「補助金の加算事業として行っている取組のすべてに○をつけてください。」として8つの事業を提示した。その結果が表 1－11 である。「1. 地域の子育て支援活動の展開を図るための取組（一時預かり等）」が最も多かった。

（2）支援（保育）担当者用

①利用児の様子

「あなたが担当している利用児の様子についてお尋ねします。利用を始めて間もない子どもと利用回数の多い子どもの姿として、次の姿はどの程度見られますか。」と尋ね、利用を始めて間もない子どもの場合と利用回数の多い子どもの場合を想定して、それぞれ「全く見られない」「見られない」「あ

表 2-1 a 利用児の様子（各選択の割合）

	各選択の割合（％）													
	利用を始めて間もない子ども							利用回数の多い子ども						
	全く見られない	見られない	あまり見られない	やや見られる	見られる	よく見られる	無回答	全く見られない	見られない	あまり見られない	やや見られる	見られる	よく見られる	無回答
①同じ場所（コーナー）でひとりで遊んでいる	6.7	8.6	18.1	37.1	20.0	5.7	3.8	2.9	7.6	26.7	26.7	21.9	9.5	4.8
②同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる	8.6	8.6	44.8	19.0	11.4	3.8	3.8	1.0	3.8	10.5	31.4	35.2	15.2	2.9
③遊び場所を頻繁に変えている	1.0	3.8	25.7	30.5	25.7	10.5	2.9	0.0	0.0	17.1	41.9	28.6	8.6	3.8
④1つの同じ遊びで、長時間遊んでいる	2.9	6.7	58.1	24.8	5.7	1.0	1.0	1.0	3.8	35.2	35.2	15.2	8.6	1.0
⑤遊びを変えながら、長時間遊んでいる	1.0	2.9	21.9	38.1	22.9	9.5	3.8	0.0	0.0	6.7	21.0	40.0	29.5	2.9
⑥遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い	0.0	3.8	16.2	42.9	21.0	13.3	2.9	0.0	3.8	27.6	40.0	22.9	1.9	3.8
⑦周囲の子どもと関わって遊んでいる	1.9	12.4	59.0	21.9	2.9	1.0	1.0	0.0	0.0	9.5	37.1	35.2	17.1	1.0
⑧保護者から離れたがらない	1.0	2.9	5.7	28.6	33.3	27.6	1.0	7.6	15.2	49.5	21.9	3.8	0.0	1.9
⑨保護者から離れて遊んでいる。	1.9	9.5	45.7	32.4	7.6	1.0	1.9	0.0	0.0	1.9	23.8	39.0	34.3	1.0
⑩保育者など施設の職員と遊んでいる	1.9	4.8	33.3	37.1	16.2	4.8	1.9	1.0	0.0	1.9	25.7	42.9	27.6	1.0

表 2-1 b 利用児の様子（中点3.5との比較）

	利用を始めて間もない子ども					利用回数の多い子ども				
	N	平均値	標準偏差	t値	p	N	平均値	標準偏差	t値	p
①同じ場所（コーナー）でひとりで遊んでいる	101	3.8	1.3	2.0	*	100	3.9	1.2	3.3	**
②同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる	101	3.3	1.2	1.8		102	4.5	1.1	9.1	***
③遊び場所を頻繁に変えている	102	4.1	1.1	5.6	***	101	4.3	0.9	9.2	***
④1つの同じ遊びで、長時間遊んでいる	104	3.3	0.8	2.8	**	104	3.9	1.0	3.6	**
⑤遊びを変えながら、長時間遊んでいる	101	4.1	1.0	6.0	***	102	5.0	0.9	16.4	***
⑥遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い	102	4.2	1.0	7.4	***	101	3.9	0.9	4.7	***
⑦周囲の子どもと関わって遊んでいる	104	3.7	0.8	4.6	***	104	4.6	0.9	12.7	***
⑧保護者から離れたがらない	104	4.8	1.1	11.8	***	103	3.0	0.9	5.6	***
⑨保護者から離れて遊んでいる。	103	3.4	0.9	1.4		104	5.1	0.8	19.6	***
⑩保育者など施設の職員と遊んでいる	103	3.8	1.0	2.7	**	104	4.9	0.9	16.7	***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

「あまり見られない」「やや見られる」「見られる」「よく見られる」の6つの選択肢を提示した。全回答者数（N=105）に対する割合を算出した結果が表2-1 aである。また、平均値及び標準偏差を算出し、平均値が中点（3.5）から有意に離れているか否かを検討するため、1標本t検定を行った結果が表2-1 bである。中点（3.5）よりも有意に高い数値はゴシック体、有意に低い数値はイタリック体で示した。利用を始めて間もない子どもと比して、利用回数の多い子どもの方が中点（3.5）よりも有意に高い項目が多かった。

さらに、利用を始めて間もない子どもと利用回数の多い子どもを比較するため、両者とも回答した者を対象に、対応のあるt検定を行った結果が表2-

1 cである。有意に高い方の数値はゴシック体で示した。「②同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる」「④1つの同じ遊びで、長時間遊んでいる」「⑤遊びを変えながら、長時間遊んでいる」「⑦周囲の子どもと関わって遊んでいる」「⑨保護者から離れて遊んでいる」「⑩保育者など施設の職員と遊んでいる」は利用回数の多い子どもの方が利用を始めて間もない子どもと比して有意に高く、「⑥遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い」「⑧保護者から離れたがらない」は有意に低かった。

②利用児や在園児への影響

「地域子育て支援拠点事業の取組によって利用児や在園児に次の①から⑩のような影響があったとどの程度思いますか。」と尋ね、利用児の場合と在園

表 2－1 c 利用児の様子（子どもの比較）

	N	利用を始めて間もない子ども		利用回数の多い子ども		t値	p
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
①同じ場所（コーナー）でひとりで遊んでいる	97	3.8	1.2	3.9	1.2	0.9	
②同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる	98	3.3	1.2	4.5	1.1	9.1	***
③遊び場所を頻繁に変えている	100	4.1	1.1	4.3	0.9	1.3	
④1つの同じ遊びで、長時間遊んでいる	103	3.3	0.8	3.9	1.0	6.3	***
⑤遊びを変えながら、長時間遊んでいる	100	4.1	1.0	5.0	0.9	8.1	***
⑥遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い	98	4.2	1.0	3.9	0.9	2.8	**
⑦周囲の子どもと関わって遊んでいる	103	3.1	0.8	4.6	0.9	15.0	***
⑧保護者から離れたがらない	102	4.8	1.1	3.0	0.9	16.4	***
⑨保護者から離れて遊んでいる。	102	3.4	0.9	5.1	0.8	15.0	***
⑩保育者など施設の職員と遊んでいる	102	3.8	1.0	4.9	0.9	10.8	***

*** $p<.001$, ** $p<.01$

表 2－2 a 利用児や在園児への影響（各選択の割合）

	各選択の割合（％）											
	利用児						在園児					
	わからない	全くそう 思わない	あまり そう 思わない	やや そう 思う	とても そう 思う	無 回 答	わからない	全くそう 思わない	あまり そう 思わない	やや そう 思う	とても そう 思う	無 回 答
①新たな人間関係が形成された	2.9	0.0	3.8	47.6	44.8	1.0	12.4	2.9	9.5	33.3	17.1	24.8
②新たな遊びや活動が展開した	2.9	0.0	4.8	50.5	40.0	1.9	13.3	2.9	19.0	23.8	16.2	24.8
③言葉や発語が促された	5.7	1.0	8.6	51.4	30.5	2.9	18.1	7.6	15.2	20.0	14.3	24.8
④食事の習慣が形成された	30.5	1.9	22.9	30.5	8.6	5.7	24.8	9.5	16.2	12.4	11.4	25.7
⑤衣服の着脱等の習慣が促された	25.7	5.7	41.9	18.1	3.8	4.8	25.7	9.5	21.0	9.5	8.6	25.7
⑥トイレ、排泄の習慣が促された	25.7	1.0	29.5	34.3	5.7	3.8	23.8	11.4	21.0	9.5	8.6	25.7
⑦けんかやトラブルが増えた	14.3	17.1	45.7	19.0	1.0	2.9	18.1	19.0	26.7	9.5	1.0	25.7
⑧けんかやトラブルが減った	21.9	9.5	45.7	15.2	2.9	4.8	21.0	11.4	29.5	10.5	1.9	25.7
⑨職員の関わりが増えた	5.7	2.9	3.8	49.5	34.3	3.8	13.3	3.8	7.6	33.3	17.1	24.8
⑩職員の関わりが減った	9.5	40.0	45.7	0.0	1.9	2.9	16.2	30.5	27.6	1.0	0.0	24.8

児の場合を想定して、それぞれ「全くそう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「とてもそう思う」の4つに加え「わからない」の選択肢を提示した。全回答者数（N=105）に対する割合を算出した結果が表 2－2 a である。また、「わからない」と回答した者を除き平均値及び標準偏差を算出し、平均値が中点（2.5）から有意に離れている

か否かを検討するため、1 標本 t 検定を行った結果が表 2－2 b である。中点（2.5）よりも有意に高い数値はゴシック体、有意に低い数値はイタリック体で示した。「①新たな人間関係が形成された」「②新たな遊びや活動が展開した」「⑨職員の関わりが増えた」は利用児・在園児ともに有意に高く、「⑦けんかやトラブルが増えた」「⑧けんかやトラブル

表 2-2 b 利用児や在園児への影響（中点 2.5 との比較）

	利用児					在園児				
	人数	平均値	標準偏差	t 値	p	人数	平均値	標準偏差	t 値	p
①新たな人間関係が形成された	101	3.4	0.6	16.3	***	66	3.0	0.8	5.5	***
②新たな遊びや活動が展開した	100	3.4	0.6	15.0	***	65	2.9	0.9	3.4	**
③言葉や発語が促された	96	3.2	0.7	10.8	***	60	2.7	1.0	1.7	
④食事の習慣が形成された	67	2.7	0.7	2.4	*	52	2.5	1.1	0.1	
⑤衣服の着脱等の習慣が促された	73	2.3	0.7	2.6	*	51	2.4	1.0	1.1	
⑥トイレ、排泄の習慣が促された	74	2.6	0.7	1.8		53	2.3	1.0	1.4	
⑦けんかやトラブルが増えた	87	2.0	0.7	6.1	***	59	1.9	0.8	6.5	***
⑧けんかやトラブルが減った	77	2.2	0.7	4.4	***	56	2.1	0.7	4.5	***
⑨職員の関わりが増えた	95	3.3	0.7	10.9	***	65	3.0	0.8	5.3	***
⑩職員の関わりが減った	92	1.6	0.6	14.3	***	62	1.5	0.5	14.7	***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

表 2-2 c 利用児や在園児への影響（子どもの比較）

	N	利用児		在園児		t 値	p
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
①新たな人間関係が形成された	66	3.4	0.6	3.0	0.8	3.3	**
②新たな遊びや活動が展開した	65	3.4	0.6	2.9	0.9	4.6	***
③言葉や発語が促された	59	3.2	0.7	2.7	1.0	3.9	***
④食事の習慣が形成された	44	2.7	0.8	2.4	1.0	1.7	
⑤衣服の着脱等の習慣が促された	46	2.2	0.7	2.2	0.9	0.0	
⑥トイレ、排泄の習慣が促された	48	2.6	0.6	2.2	1.0	2.4	*
⑦けんかやトラブルが増えた	57	2.1	0.7	1.9	0.8	1.8	
⑧けんかやトラブルが減った	51	2.2	0.7	2.1	0.7	0.8	
⑨職員の関わりが増えた	62	3.3	0.7	3.0	0.8	2.8	**
⑩職員の関わりが減った	59	1.6	0.5	1.5	0.5	0.8	

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$

が減った」「⑩職員の関わりが減った」は利用児・在園児ともに有意に低かった。「③言葉や発語が促された」「④食事の習慣が形成された」は利用児のみ有意に高く、「⑤衣服の着脱等の習慣が促された」は利用児のみ有意に低かった。

さらに、利用児と在園児の比較を行うため、利用児・在園児いずれか一方に「わからない」と回答した者及び無回答だった者を除き、対応のある t 検定を行った結果が表 2-2 c である。有意に高い方の数値はゴシック体で示した。「①新たな人間関係が形成された」「②新たな遊びや活動が展開した」「③言葉や発語が促された」「⑥トイレ、排泄の習慣

が促された」「⑨職員の関わりが増えた」の項目で、在園児に比して利用児の方が「そう思う」の方向への回答が有意に高かった。

③保有資格

「あなた自身のことについてお尋ねします。どのような資格をお持ちですか。持っている資格の全てに○をつけてください。」と尋ね、「保育士」「幼稚園教諭」「家庭的保育者」「子育て支援員」「保健師または看護師」の 5 つに加え、「その他」「資格はない」の選択肢を設けた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表 2-3 である。「保育士」「幼稚園教諭」「子育て支援員」の順に割合が高かった。

表 2－3 保有資格

	回答者数	割合(%)
保育士	90	85.7
幼稚園教諭	76	72.4
家庭的保育者	2	1.9
子育て支援員	27	25.7
保健師または看護師	1	1.0
その他	18	17.1
資格はない	2	1.9

表 2－4 幼児教育・保育業務経験年数

N	平均(年)	中央値(年)	標準偏差
92	19.5	20.0	10.6

表 2－5 幼児教育・保育業務担当経験

	回答者数	割合(%)
0歳児担当	58	55.2
1歳児担当	66	62.9
2歳児担当	73	69.5
3歳児担当	71	67.6
4歳児担当	71	67.6
5歳児担当	64	61.0
主任(主幹)	27	25.7
一時保育担当	22	21.0
子育て支援担当	82	78.1
フリー	43	41.0
いずれも担当したことがない	3	2.9

なお、「その他」の半数（9人）は「小学校教諭」であった。

④幼児教育・保育業務経験年数

「あなたは、これまでに通常の幼児教育・保育の業務に携わったことがありますか。あるかたはおおよその経年数を教えて下さい。」と尋ね、全回答者数（N=105）のうち95人（90.5%）が「ある」と回答した。うち92人が回答した経年数の平均値、中央値及び標準偏差を示したものが表2－4である。その結果、平均19.5年であり、ある程度の経験を積んでいることがうかがえた。

⑤幼児教育・保育業務担当経験

「あなたは、これまでに通常の幼児教育・保育事

業の業務として、下記の担当をしたことがありますか。担当したことのあるものすべてに○をつけてください。」と尋ね、「0歳児担当」「1歳児担当」「2歳児担当」「3歳児担当」「4歳児担当」「5歳児担当」「主任（主幹）」「一時保育担当」「子育て支援担当」「フリー」「いずれも担当したことがない」の11の選択肢を設けた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表2－5である。その結果、「子育て支援担当」が最も高い割合であった。また、0～5歳の担当も半数～3分の2の者が経験をしていることが明らかとなった。

⑥拠点事業の業務時間

「あなたは、現在、どの程度、拠点事業の業務に

表 2-6 拠点事業の業務時間

N	平均(時間)	中央値(時間)	標準偏差
102	30.2	30.0	18.8

表 2-7 拠点事業の経験年数

N	平均(年)	中央値(年)	標準偏差
105	6.2	4.0	6.0

表 2-8 過去1年で受講した研修回数

研修別	N	平均(回)	中央値(回)	標準偏差
園内研修	75	4.1	3.0	6.1
園外研修	90	2.5	2.0	2.4

表 2-9 「地域子育て支援拠点事業」研修受講有無

	回答者数	割合(%)
はい	42	40.0
いいえ	56	53.3
無回答	7	6.7

携わっていますか。1週間あたりの通算時間として計算すると、およそどのくらいかお答えください。※週によって異なる場合はもっとも多い場合でお答えください。」と尋ね、全回答者数(N=105)のうち、1週間を時間換算した数値(168時間)を超える回答2人及び無回答者1人を除外した102人(97.1%)を分析対象とした。1週間あたりの通算業務時間平均値、中央値及び標準偏差を示したものが表2-6である。その結果、平均は30.2時間であり、拠点事業が少なくとも週3日以上の実施であることと照らし合わせると、首肯できる結果であった。

⑦拠点事業の経験年数

「この事業の経験年数をお書きください。」と尋ね、全回答者数(N=105)の経験年数平均値、中央値及び標準偏差を示したものが表2-7である。その結果、平均は6.2年であったが、中央値が4.0年であることから、経験年数の高いものが一定数いることがうかがえた。

⑧過去1年で受講した研修回数

「この1年で受けた研修の回数をお書きください。」と尋ね、園内研修・園外研修の受講回数の記入を求めた。全回答者数(N=105)のうち園内研修

は75人(71.4%)、園外研修は90人(85.7%)がそれぞれ回答した。園内研修・園外研修別の受講回数平均値、中央値及び標準偏差を示したものが表2-8である。1年間で園内研修・園外研修を複数回受講していることがうかがえた。

⑨「地域子育て支援拠点事業」研修受講有無

「あなたは、子育て支援員専門研修(地域子育て支援コース)の「地域子育て支援拠点事業」の研修を受講しましたか。」と尋ね、「はい」「いいえ」の選択肢を設けた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表2-9である。「はい」と回答した割合は40%であった。

⑩キャリアアップ研修受講有無

「あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください(複数回答可)。」と尋ね、「乳児保育」「幼児教育」「障害児保育」「食育・アレルギー対応」「保健衛生・安全対策」「保護者支援・子育て支援」「マネジメント」「保育実践」「受講していない」の9つの選択肢を設けた。各選択肢が選ばれた割合を示したものが表2-10である。約6割の者が何らかのキャリアアップ研修を受講しており、「保護者支援・子育て支援」「乳

表2-10 キャリアアップ研修受講有無

	回答者数	割合(%)
乳児保育	30	28.6
幼児教育	14	13.3
障害児保育	25	23.8
食育・アレルギー対応	13	12.4
保健衛生・安全対策	15	14.3
保護者支援・子育て支援	45	42.9
マネジメント	21	20.0
保育実践	7	6.7
受講していない	40	38.1

児保育」「障害児保育」の順に高く、地域子育て支援拠点事業に直接かかわると推察される研修内容が高かった。青井ら（2024）は、保育所及び認定こども園における子育て支援に関する事業担当者に質問紙調査を行い、キャリアアップ研修受講有無を尋ねた結果、「保護者支援・子育て支援」「マネジメント」「乳児保育」の順に高く、本研究結果と一致する点が見いだされた。

⑪仕事への「やりがい」（資質向上意欲のきっかけ）

「あなたは次のようなときに、仕事への「やりがい」どの程度感じますか？」と尋ね、「まったく感じない」「感じない」「あまり感じない」「まあまあ感じる」「感じる」「非常に感じる」の6つの選択肢に加え、「経験したことがない」を提示した。全回答者数（N=105）に対する割合を算出した結果が表2-11である。すべての項目において「感じる」の方向に回答する割合が高かった。一方、「役職が上がったとき」は「経験したことがない」が約4分の1の回答であった。

（3）保護者用

①利用開始時期

「いつからこの施設を利用されていますか」と尋ね、利用開始の時期の年月を具体的に書いていただいた。開始の年毎の回答者数と全回答者数（N=273）に対する割合を表3-1に示した。2025年から利用を開始したものが最も多く、次いで2024年から利用を開始したものが多かった。かなり以前から利用していたものも若干含まれていた。

②利用頻度

「現在月にどの程度利用されていますか」と尋ね、

利用頻度の状況を具体的に書いていただいた。「〇～〇回」というように一定の範囲で回答したものについてはその中間の値として集計した（たとえば5～10回という回答なら、7.5回として集計した）。5回毎に集計をして、それぞれの回答者数と全回答者数（N=273）に対する割合を表3-2に示した。

1月の利用頻度が5回未満というものが最も多く、ついで5回以上10回未満が多かった。20回以上というものも一定数みられた。

③施設利用の理由

「この施設を利用する理由についてお尋ねします。現在のあなたは、それぞれの理由についてどの程度そう思いますか。1～6の数字のいずれかに〇をつけてください。」と問いかけ、17の理由を提示し、それぞれの理由に対して、「1全くそう思わない 2そう思わない 3どちらかというそう思わない 4どちらかというそう思う 5そう思う 6非常にそう思う」の6つの選択肢から回答してもらった。1～6の選択肢を選んだ回答者の割合と、1～6を得点とみなした場合の平均値と標準偏差を表3-3に示した。

「親子とも、この施設を気軽に利用できるから」「施設の職員が子どもに関わってくれるから」「親子でこの施設を楽しめるから」「子どもがこの施設で喜んで遊ぶから」「親子とも、この施設に来ることで安心できるから」などの理由が、「非常にそう思う」という回答が多かった。逆に、「この施設に自分の友人がいるから」などの理由は、「非常にそう思う」という回答が少なかった。

④子どもの施設利用時の様子

「お子さまの利用時の様子についてお尋ねします。次の文について「全くあてはまらない」から「非常

表 2－11 仕事への「やりがい」(資質向上意欲のきっかけ)

	仕事への「やりがい」(%)							
	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	経験したことがない	無回答
上司に自分の仕事が認められたとき	0.0	1.0	1.9	11.4	42.9	40.0	1.0	1.9
自分の仕事で子どもが喜んだとき	0.0	0.0	0.0	2.9	28.6	66.7	1.0	1.0
子どもの成長を感じることができたとき	0.0	0.0	0.0	1.9	21.0	75.2	1.0	1.0
保護者から感謝されたとき	0.0	0.0	0.0	3.8	31.4	63.8	0.0	1.0
自分に任せられた業務を全うできたとき	0.0	0.0	1.0	8.6	41.9	47.6	1.0	0.0
責任の重い仕事や役割を任せられたとき	0.0	1.0	11.4	21.9	41.9	15.2	5.7	2.9
新しい仕事や役割を任せられたとき	0.0	1.0	8.6	30.5	42.9	12.4	2.9	1.9
他の職員との共同で目標が達成できたとき	0.0	0.0	0.0	6.7	42.9	48.6	1.0	1.0
給料が上がったとき	0.0	0.0	5.7	16.2	32.4	42.9	1.0	1.9
役職が上がったとき	0.0	2.9	18.1	17.1	18.1	11.4	27.6	4.8

表 3－1 施設利用を開始した時期

	回答者数	割合(%)
2025年から	117	42.9
2024年から	71	26.0
2023年から	31	11.4
2022年から	20	7.3
2021年から	7	2.6
2020年から	11	4.0
2019年から	7	2.6
2018年以前から	9	3.3

表 3－2 施設の利用頻度

	回答者数	割合(%)
5回未満	127	46.5
5回以上10回未満	68	24.9
10回以上15回未満	42	15.4
15回以上20回未満	19	7.0
20回以上	17	6.2

表 3－3 施設を利用する理由

	N	各回答の割合(%)						平均	標準偏差
		全くそう 思わない	そう思わ ない	どちらかと いうとそう 思わない	どちらかと いうとそう 思う	そう思う	非常に そう思う		
この施設に自分の友人がいるから	274	28.5	15.3	12.0	21.5	12.0	10.6	3.1	1.7
この施設に悩みを気軽に話せる人がいるから	274	1.5	3.6	3.3	28.1	29.6	33.9	4.8	1.1
この施設で子育てについて相談できるから	274	0.4	0.4	2.9	17.9	35.4	43.1	5.2	0.9
この施設で子育てに関する情報が得られるから	273	0.4	0.7	1.1	16.8	38.1	42.9	5.2	0.9
この施設で保育所・幼稚園・認定こども園の情報が得られるから	274	0.7	2.9	8.0	29.9	34.3	24.1	4.7	1.1
この施設で子育てに関する講座や講習会を受けられるから	273	4.4	7.7	12.5	23.4	26.4	25.6	4.4	1.4
自分自身のストレスが解消されるから	274	2.2	0.7	3.3	21.2	34.7	38.0	5.0	1.1
自分自身の身体的な疲れが解消されるから	274	2.6	4.0	8.4	33.9	27.0	24.1	4.5	1.2
親同士で交流できるから	274	1.5	1.5	1.8	18.2	40.5	36.5	5.0	1.0
子どもがこの施設で喜んで遊ぶから	274	0.0	0.0	0.0	7.3	26.3	66.4	5.6	0.6
子どもが他の子どもと交流できるから	274	0.0	0.0	0.7	7.7	30.3	61.3	5.5	0.7
子どもが親以外の大人と関わることができるから	274	0.0	0.0	0.4	17.5	28.5	53.6	5.4	0.8
施設の職員が子どもに関わってくれるから	274	0.4	0.0	0.0	4.4	26.6	68.6	5.6	0.6
いつでも職員が手助けをしてくれるから	273	0.4	0.0	1.5	9.9	27.1	61.2	5.5	0.8
親子でこの施設を楽しめるから	274	0.0	0.0	0.4	5.1	26.6	67.9	5.6	0.6
親子とも、この施設に来ることで安心できるから	274	0.4	0.0	0.0	8.4	24.8	66.4	5.6	0.7
親子とも、この施設を気軽に利用できるから	274	0.0	0.0	0.0	4.4	21.2	74.5	5.7	0.5

表 3－4 子どもの施設利用時の様子

	N	各回答の割合(%)						平均	標準偏差
		全くあては まらない	あてはまら ない	どちらかと いうとあて はまらない	どちらかと いうと当て はまる	当てはまる	非常によく 当てはまる		
ひとりで楽しく遊んでいる	274	0.4	2.6	8.4	19.3	41.2	28.1	4.8	1.0
周囲の子どもと関わって遊んでいる	274	0.7	4.7	14.6	30.7	31.0	18.2	4.4	1.1
施設の職員と楽しそうに遊んでいる	274	0.0	1.5	4.4	19.0	31.8	43.4	5.1	1.0
自宅にないおもちゃで遊んでいる	274	0.0	0.7	2.2	6.9	31.8	58.4	5.4	0.8
自宅にあるのと同じおもちゃで遊んでいる	274	7.7	16.1	29.9	21.5	18.6	6.2	3.5	1.3
保護者と遊びたがる	274	3.6	12.8	24.8	35.8	17.5	5.5	3.7	1.2

によく当てはまる」のいずれか1つを選んで○をつけてください。」と問いかけ、6の子どもの状態をあらわす文章を提示し、それぞれの文章に対して、「1 全くあてはまらない 2 あてはまらない 3 どちらかというたとあてはまらない 4 どちらかというたと当てはまる 5 当てはまる 6 非常によく当てはまる」の6つの選択肢から回答してもらった。1～6の選択肢を選んだ回答者の割合と、1～6を得点とみなした場合の平均値と標準偏差を表3－4に示した。

「自宅にないおもちゃで遊んでいる」や「施設の職員と楽しそうに遊んでいる」などが、「非常によく当てはまる」という回答が多かった。逆に、「自宅にあるのと同じおもちゃで遊んでいる」や「保護者と遊びたがる」などは、「非常によく当てはまる」という回答が少なかった。

⑤子どもの帰宅後の様子

「お子さまの帰宅後の様子についてお尋ねします。次の文について「全くあてはまらない」から「非常によく当てはまる」のいずれか1つを選んで○をつけてください。」と問いかけ、8の子どもの状態をあらわす文章を提示し、それぞれの文章に対して、「1 全くあてはまらない 2 あてはまらない 3 どちらかというたとあてはまらない 4 どちらかというたと当てはまる 5 当てはまる 6 非常によく当てはまる」の6つの選択肢から回答してもらった。1～6の選択肢を選んだ回答者の割合と、1～6を得点とみなした場合の平均値と標準偏差を表3－5に示した。

「よく眠る」や「夕食時にたくさん食べる」などが、「非常によく当てはまる」という回答が多かった。逆に、「保護者に甘えたがる」や「保護者と遊びたがる」などは、「非常によく当てはまる」という回答が少なかった。

表 3-5 子どもの帰宅後の様子

	N	各回答の割合(%)						平均	標準偏差
		全くあてはまらない	あてはまらない	どちらかというにあてはまらない	どちらかという当てはまる	当てはまる	非常によく当てはまる		
施設で遊びをするようになる	265	0.4	7.2	15.1	41.1	24.9	11.3	4.2	1.1
夕食時にたくさん食べる	263	1.9	7.6	19.0	29.7	25.9	16.0	4.2	1.2
よく眠る	265	0.4	3.8	6.8	22.3	35.5	31.3	4.8	1.1
保護者に甘えたがる	266	4.5	11.7	38.3	26.7	13.5	5.3	3.5	1.2
保護者と遊びたがる	266	2.6	6.0	29.3	37.6	17.7	6.8	3.8	1.1
施設に行きたがる	261	5.7	7.7	14.9	31.0	24.9	15.7	4.1	1.4
じっくりと遊びに組み込むようになる	264	2.3	7.2	17.8	35.2	26.9	10.6	4.1	1.2
施設の話を話す	254	28.3	15.4	11.8	15.4	18.9	10.2	3.1	1.8

表 3-6 施設利用による子どもへの影響

	N	各回答の割合(%)				平均	標準偏差
		全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う		
新たな人間関係が形成された	257	0.0	2.3	35.8	61.9	3.6	0.5
新たな遊びや活動が展開した	263	0.0	4.2	38.0	57.8	3.5	0.6
言葉や発話が促された	244	1.2	12.3	50.4	36.1	3.2	0.7
食事の習慣が形成された	232	6.9	37.1	43.1	12.9	2.6	0.8
衣服の着脱等の習慣が促された	207	15.9	49.8	29.5	4.8	2.2	0.8
トイレ、排泄の習慣が促された	199	25.1	48.2	17.1	9.5	2.1	0.9
けんかやトラブルが増えた	228	61.8	31.1	6.6	0.4	1.5	0.6
けんかやトラブルが減った	202	35.1	44.1	18.3	2.5	1.9	0.8
保護者との関わりが増えた	254	3.9	9.8	48.4	37.8	3.2	0.8
保護者との関わりが減った	253	68.0	29.2	2.4	0.4	1.4	0.5

⑥施設利用による子どもへの影響

「地域子育て支援拠点事業を利用することによって、次の①～⑩のような影響があったとどの程度思いますか。項目毎に「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4段階のうちもっとも当てはまる数字に○をつけてください。」と問いかけ、10の項目を提示し、それぞれの項目に対して、「1 全くそう思わない 2 あまりそう思わない 3 ややそう思う 4 とてもそう思う」の4つの選択肢から回答してもらった。4つの選択肢以外にも「0 わからない」という選択肢も設けた。1～4の選択肢を選んだ回答者の割合と、1～4を得点とみなした場合の平均値と標準偏差を表3-6に示した。

「新たな人間関係が形成された」や「新たな遊びや活動が展開した」などが、「とてもそう思う」という回答が多かった。逆に、「けんかやトラブルが

増えた」や「保護者との関わりが減った」などは、「とてもそう思う」という回答が少なかった。

⑦回答者の年齢

回答者の年齢について、「10歳代、20歳代、30歳代、40歳代以上」という選択肢を提示して回答してもらった。その結果を表3-7に示した。「30歳代」が最も多く半数を超え、ついで「20歳代」と「40歳代以上」がほぼ同数程度であった。

⑧施設を利用している子どもの年齢

「現在この施設を利用しているお子さまについてお尋ねします。現時点の年齢（月齢含む）を教えてください。」と問いかけ、利用している子どもの人数分、その年齢を具体的に回答してもらった。各年齢の子どもの人数と全人数（N=353）に対する割合を表3-8に示した。1歳児が最も多く、ついで2歳児と0歳児が多かった。

表3－7 回答者の年齢

	回答者数	割合(%)
10歳代	1	0.4
20歳代	41	16.1
30歳代	167	65.5
40歳代以上	46	18.0

表3－8 施設を利用している子どもの年齢

	回答者数	割合(%)
0歳児	76	21.5
1歳児	119	33.7
2歳児	80	22.7
3歳児	38	10.8
4歳児	22	6.2
5歳児	11	3.1
6歳児以上	7	2.0

表3－9 子育てを助けてくれる人物

	回答者数	割合(%)
配偶者(パートナー)	260	94.9
あなたの父母	207	75.5
配偶者(パートナー)の父母	125	45.6
あなたのきょうだい	88	32.1
友人・知人	122	44.5
その他	28	10.2

⑨子育てを助けてくれる人物

「子育てに困ったときに助けてくれる人について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。」と問いかけ、6の項目を提示し、複数回答可にて回答してもらった。各項目を選択した回答者数と全回答者数に対する割合を表3－9に示した。

ほとんどのものが「配偶者（パートナー）」を選択した。「あなたの父母」を選択するものも多かった。

⑩子育て支援に関する希望

「子育て支援に関して希望することについて、当

てはまる番号すべてに○をつけてください。」と問いかけ、10の項目を提示し、複数回答可にて回答してもらった。各項目を選択した回答者数と全回答者数に対する割合を表3－10に示した。

「子どもが楽しめるイベントを開催してほしい」「一時預かりを気軽にできるとよい」「土日祝日等の休日の利用ができるとよい」などを選択するものが多かった。

表 3－10 子育て支援に関して希望すること

	回答者数	割合(%)
土日祝日等の休日の利用ができるとよい	148	54.0
一時預かりを気軽にできるとよい	155	56.6
子どもが楽しめるイベントを開催してほしい	157	57.3
現行の利用時間帯よりも長い時間利用ができるとよい	59	21.5
公園や屋内外の遊び場など遊べる場所がほしい	137	50.0
いろいろと相談できるとよい	83	30.3
現状の施設やサービスがもっと増えてほしい	104	38.0
他の子どもや大人と交流する経験を積ませたい	114	41.6
経済的支援がほしい	49	17.9
その他	8	2.9

Ⅲ. 面接調査

1. 方法

(1) 対象

地域子育て支援拠点事業を実施している施設（5か所）に訪問し調査を実施した。そのうちの4施設を対象に所属する保育者6名、施設を利用している保護者6名を対象とし、半構造化インタビューを行った。基本的には個別インタビューであったが、対象者の希望により一部グループインタビューとなった。

(2) 手続き

近畿圏および九州圏の地域子育て支援拠点事業を運営する保育所等の各施設長に対して、面接調査に関する説明を行い、支援を担当している保育者1名の選定と利用者（保護者）1名の紹介を依頼した（別紙3）。なお、利用者（保護者）への調査は必須としなかった。

調査対象者には、後述する倫理的配慮が示された調査説明書（別紙4）に基づいて面接調査の説明を行い、面接調査実施に同意をする場合、同意書（別紙5）の署名欄に署名を求めた。その後、インタビューシートに基づき調査を行った。面接調査は2025年12月初旬に行った。なお、調査協力同意後の同意撤回申し出に備え、同意撤回書（別紙6）を準備していたが、申し出をした者はいなかったため、実際には使用しなかった。

(3) 調査項目

保育者には、比較的利用頻度の高い子どもを1名想定してもらい、利用開始時から今までの子どもの育ちの変化を5領域（健康領域〔基本的生活習慣を含む〕・人間関係領域〔対大人、対子ども〕・環境領域〔ものやこととのかわり〕・言葉領域・表現領域）に沿って尋ねた。保護者には、施設の利用開始時期や利用頻度、子どもの年齢、施設の利用開始時から今までの子どもの生活や様子の変化（施設利用時と帰宅後）を尋ねた。

(4) 倫理的配慮

回答は自由意思であり調査内容の一部またはすべてに回答しないことも可能であること、あるいは途中で面接調査を中断できること、ICレコーダーの録音や逐語録のデータは個人が特定されない形に加工して保管すること、学会発表や論文公表研究の目的以外には使用せず、個人が特定されない形で発表を行うこと等について文書及び口頭で説明を行った。なお、本研究は日本保育協会保育科学研究所の倫理委員会で審査され、2025年3月18日付で承認を得た

2. 結果

(1) 保育者からみた子どもの変化

【健康領域〔基本的生活習慣を含む〕】

・ボールを投げる、転がす、滑り台を滑る、ボールプールに飛び込むなど、ダイナミックな遊びをするようになった。

・繰り返しの中で、手を洗うことや排泄の習慣が身についた。

【人間関係領域「対大人、対子ども」】

・最初は緊張からか、大人のことが苦手な様子で、母親にくっついていて、何度も通っているうちに慣れてきて人間関係がひろがり、保育者とも遊ぶようになったり、自分よりも小さい子どもにはおもちゃを渡してあげるなどの行動も見られるようになった。

- ・大人にも子どもにもかかわりが多くなった。
- ・先生とのやり取りの回数が増えてきた。
- ・園であった経験を家で話すようになった。
- ・子どもから大人向けの発言が増えた。
- ・「貸してちょうだい」など発言をするようになった。

【環境領域「ものやこととのかかわり」】

・成長発達とともに、遊ぶおもちゃが変化し、今はブロックやパズル、ボールプールやプラレールなど、保育室にあるおもちゃで遊んでいる。

- ・他の子どもがもっている絵本に興味を持っている。
- ・魚に興味を持ち、詳しい魚の名前が好きになった。
- ・ブロックを組み合わせたり、他の遊具を長くつないだりして、気の合う子どもと遊んでいる。

【言葉領域】

- ・言葉の数、語彙数が増えている。
- ・少し会話ができるようになってきている。

【表現領域】

・プレで来ている時は、母親の側でじっとしていることが多かったが、ブロックを使って母親と一緒に車や恐竜などを作ったり、歌を聞いて体を動かしたりするようになった（家では大きな声で歌っている）。

・歌遊びなどノリノリで前に出て踊ったりしている。音楽、手遊び、絵本も好きである。

- ・歌うのが好きになった。
- ・オルゴールに興味を持ち、「ちょっと止めて」「もう一回」などと要求するようになった。
- ・年齢よりも音程が取れていた。

【その他】

- ・園には慣れてきているが、在園児の3歳児クラスの子どもたちの中に入るのは恥ずかしがっている。
- ・以前は5歳児との交流など、在園児と一緒に過ごす時間をとって、年長児に名前を呼ばれたり遊びに誘ってもらったりすることが嬉しかったが、コロナ禍の影響でできなくなってしまった。

・園庭開放の時に砂場で在園児と一緒に遊ぶことがあり、年長児が作ったものを見せてもらったり、遊びに誘ってもらったりして、在園児のやさしさを感じたり、母親も嬉しそうにしている。

（2）保護者からみた子どもの変化

Aさん

【利用頻度】1か月に5～10回程度

【利用している時の子どもの遊びの様子の変化】

・利用を始めた頃はトミカの車を走らせて遊んでいた。最近は、ボールプールやプラレールなど、家ではできない遊びをしている。

【帰宅後の子どもの様子の変化】

・利用を始めた頃は、帰宅後は疲れて昼寝をしていたが、最近は体力がついてきたのか寝ないようになった。

・上のきょうだいに「せんせいと～した」と嬉しそうに寝るまで話したり、「プラレール（家ですることではない）した」とよく話したりするようになった。

- ・ここ3か月ぐらいで急に言葉が増えた。
- ・自分から「せんせいのとこいく」と言うようになり、施設に行くために、片づけをしたり、行く準備をしたりするようになった。
- ・新しいことを覚えて、家でもするようになった。園での経験が刺激になっていると感じる。

Bさん

【利用頻度】1か月に平均15回程度

【利用している時の子どもの遊びの様子の変化】

・利用し始めた頃は、電話の受話器のおもちゃをなめたり、持っているものをなめては投げたりしていた。手に持ちやすいものを持ってなめていたと思う。押したら動く車が好きだった。

・最近は、家より広いのでのびのびすごしている。楽しく過ごしている。ボールを投げたり、蹴ったり、落としたりする遊びがすきである。料理などの遊び、ママゴトをよくする。

・月齢が早い子どもをじっと見ていたりするし、年少の子どもへは嫌な思いをさせない。

・最近はママゴト遊びの中でストーリー性のある遊びができるようになった。例えば、コップを持ってきて乾杯をしたり、お皿に料理を載せて持ってきてくれたりする。

【帰宅後の子どもの様子の変化】

・利用し始めた頃は、今よりは体力がなく、帰宅後は少し疲れていた。今は、体力がついたと思う。

・子育て支援センターは午前中に利用することが多く、帰宅して昼食後に午睡をする生活をしている。寝起きが悪いことは多いが、子育て支援センターを利用することで生活リズムが整っている。

・外へ行くのが好きになって、靴下をはいて、靴を履いて、ジャンパーを着ると外へ行くと思っている。

・内面的な感情も含めて順調に育っている。

Cさん・Dさん・Fさん・Gさん

【利用頻度】ほぼ毎日

【利用している時の子どもの遊びの様子の変化】

・人見知りや場所見知りがなくなった。知らない人を見ても泣かなかったり、新しい場所でも遊べたりできるようになった。通い始めは様子をうかがうように行動していたが、今では保育者や他児の母親ともかかわるようになった。

【帰宅後の子どもの様子の変化】

・家でぐっすり眠ってくれるようになった。生活のリズムが整った。

・満足するまで遊んですっきりして、子ども自身のストレスが発散できるためか、機嫌がよくなる。

IV. 総合考察

1. 結果の概要

本研究の目的は、保護者が地域子育て支援拠点事業を利用することが子どもに与える影響を調べることであった。質問紙調査では西日本で地域子育て支援拠点事業を実施している保育所等の半数（337か所）に、施設長用、支援（保育）担当者用、保護者用の3種類の調査票を郵送した。107か所から回答があり、回収率は31.8%であった。

調査の結果、利用回数が多い子どもは利用を始めて間がない子どもよりも「同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる」「1つの遊びで、長時間遊んでいる」などの姿がよく見られること、逆に利用を始めて間がない子どもは利用回数が多い子どもよりも「遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い」「保護者から離れたがらない」などの姿がよく見られることが明らかになった（表2-1c）。地域子育て支援拠点事業に子どもが来ることで、在園児にも「新たな人間関係が形成された」「新たな遊びや活動が展開した」などの点で良い影響があることが見出された（表2-2b）。保護者から見ても「新たな人間関係が形成された」「新たな遊びや活動が展開した」「言葉や発話が促された」などの

点で施設利用による子どもへの影響が大きいことが示された（表3-6）。

面接調査では5か所を訪問し、6名の保育者と6名の保護者と面接を行った。保育者への調査では、5領域の各領域にそって利用児に様々な変化が見られることが示された。保護者への調査では、利用回数が多いと、利用しているときの遊びに変化が見られるだけでなく、帰宅後の様子にもよい方向での変化が見られることが示唆された。

2. 本研究の意義

本研究には2つの意義がある。その1つは地域子育て支援拠点事業を展開する保育所等の活動内容を考える視点を提供したという意義である。例えば地域子育て支援拠点事業には様々な活動形態があること（表1-5）、親子の交流内容にも様々な活動が展開されていること（表1-6）が明らかになった。今回の報告では、詳細な分析まで至っていないが、こうした様々な活動毎に子どもへの影響を検討することによって、地域子育て支援拠点事業と子どもの発達との関連を詳細に解明でき、ひいてはどのような活動が地域子育て支援拠点事業として求められるかを考える基礎を提供できる可能性をもっている。

本研究のもう1つの意義は、保育の専門性を考える視点を提供したという意義である。従来の研究（小野, 2013; 2015）では、保護者に子どもの変化を尋ねていたが、本研究では保護者だけでなく保育者にも子どもの姿や変化を尋ねることで、保育の専門家の視点からの子どもへ影響を検討できた。また従来の研究では質問紙調査に留まっていたが、本研究では保育者への面接調査を通して、地域子育て支援拠点事業が子どもに与える影響を保育内容の5領域の視点でも捉えられることを明らかにした。保育内容の5領域の視点を取り入れることで、いわゆる通常の保育と共通の枠組みでの考察が可能になる。児童福祉法第18条の4では、「保育士とは第十八条の十八第三項に規定する保育士登録（次条第四号において「保育士登録」という。）を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもつて、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」と定義されている。地域子育て支援拠点事業に携わる保育士は、特に後者の業務に力点を置いていると考えられるが、地域子育て支援拠点事業での子どもの経験と通常の保育事業での子どもの経験は相互に関連し合うものである。そのため地域子育て支援拠点事業での子どもの経験が、今後、保育所等で経験を積み重ねる素地となること

も期待できるであろう。

3. 本研究の応用と発展

本研究では施設長用、支援（保育）担当者用、保護者用の3種類の調査票を独立に分析した。今後は、これらの関係を分析することで、地域子育て支援拠点事業の活動形態や親子の交流の仕方が、子どもの姿にどのように影響を与えるのかを調べていく必要がある。

また本研究は、地域子育て支援拠点事業を実施している保育所等だけに焦点を当てた。しかしながら、子育て支援は多くの保育所等で実施されている。例えば一時預かり事業や園庭開放（施設開放を含む）などは、多くの保育所等が実施している（例えば、リベルタス・コンサルティング, 2022; 全国保育士会, 2024）。これらの事業も子どもに様々な影響を与えていることが推測できる。今後は全ての保育所等を対象に、事業の様々な形態が子どもに与える影響を調べることも期待される。

引用文献

- 青井 夕貴・清水 益治・西村 重稀・波田埜 英治・吉岡 眞知子・成田 朋子・碓氷 ゆかり・森 俊之・水上 彰子・中島 一・千葉 武夫・岡村季光（2024）. 保育所等の地域子育て支援担当者の資質に関する研究 保育科学研究、13、131-164.
- 森 俊之・清水 益治・千葉 武夫・青井 夕貴・岩橋道世・新保 雄希・高木 麻里・藤山 小百合・中西 淳也・西村 重稀（2025）. こども誰でも通園制度（仮称）の実施に向けた課題に関する研究 保育科学研究、14、160-209.
- 岡村 季光・清水 益治（2025）. 地域子育て支援拠点事業に関する研究 ―事業そのものと支援者に焦点を当てた論文・論考を中心に― 帝塚山大学教育学部紀要、6、38-48.
- 岡村 季光・清水 益治・西村 重稀・波田埜 英治・吉岡 眞知子・成田 朋子・碓氷 ゆかり・森 俊之・水上 彰子・中島 一・千葉 武夫・青井 夕貴（2025）. 地域子育て支援拠点事業の利用者の社会的居場所感の変容に関する研究 保育科学研究、14、90-127.
- 小野 セレスタ 摩耶（2013）. A 市地域子育て支援拠点事業の利用者評価に関する研究：実施場所別の分析結果を中心に Human Welfare：HW、5（1）、75-85.
- 小野 セレスタ 摩耶（2015）. 地域子育て支援拠点事業の利用者満足度を構成する要因の探索的研究 - 総合満足度に影響を与える要因の分析 関西社会福祉研究、1、71-81.
- リベルタス・コンサルティング（2022）. 令和3年度内閣府補助事業「認定こども園における子育て支援事業の取り組み等に関する調査研究」調査報告書 https://libertas.co.jp/wp-content/uploads/2025/07/kodomoen_hokokusho0406.pdf（2025年12月25日アクセス）
- 全国保育士会（2024）. 「地域の子ども・子育て家庭支援の実施状況等に関する調査結果報告」 https://www.z-hoikushikai.com/about/siryo-box/book/kateishien_kekka.pdf（2025年12月25日アクセス）

【別紙 1】

令和 7 年 10 月

地域子育て支援拠点事業の施設長 様

「地域子育て支援拠点事業に関する調査研究」アンケート調査のお願い

皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、私たちは、社会福祉法人日本保育協会の令和 7 年度保育科学研究の補助を受けて、地域子育て支援に関する調査研究を行うこととなりました。

つきましては、研究の一環として下記の通りアンケート調査を実施させていただきたいと存じます。

ご多用の折恐縮ではございますが、研究主旨をご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

1. アンケート調査の目的・調査票及び封筒配布対象

- ・調査票は、**施設長用**、**支援(保育)担当者用**、**保護者用（3部）**の3種類にて構成しています。
- ・**施設長用**は、保育施設の概要に関する設問となっています。**管理職**の方にご回答をお願いします。
- ・**支援(保育)担当者用**は、**地域子育て拠点事業を担当する方**に回答をお願いします。
- ・**保護者用（3部）**は、**地域子育て支援を利用されている方のお子さまのお父様またはお母様**を対象に、施設の利用期間・頻度、利用理由、子どもの様子などについて調査します。**施設内で任意に選んでいただいた3名の方**に封筒に入った調査票を配布下さい。調査票のサンプル一部、封入しています。

2. 調査票回収について

- ・お手数ですが利用者調査票の回収にあたっては、場所を設定いただき回収をお願いします。その際、同封の掲示物をご活用下さい。回答された調査票は封筒に入っている状態ですが、中身を開けずにそのまま所定の返信用封筒にお入れいただき、ご返送下さい。配布しなかった調査票はそのままご返却下さい。

3. 返送の期日

- ・お忙しいところ恐縮ですが、統計処理の都合上、**令和 7 年 11 月 14 日（金）**までに返送下さいますようお願い申し上げます。

4. 集計

- ・アンケート調査は無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。
 - ・データはコンピュータにより統計処理をいたします。
 - ・データは、研究代表者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。
- また、研究終了後は 10 年間保管し、データ消去・調査票の溶解処理等適切な方法で廃棄します。

5. 研究倫理

- ・この研究は、日本保育協会保育科学研究倫理委員会の承認を受けています。
- ・アンケート調査の一部またはすべてに回答しなくても不利益を受けることは決してありません。
- ・得られたデータをもとに、学会発表や論文公表を行う予定ですが、施設や個人を特定する形で公表することはありません。
- ・利益相反は存在しません。
- ・アンケート調査への回答及び調査票の提出をもって研究協力に同意したものとさせていただきます。

研究組織 「地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児に関する研究」検討委員会

令和 7 年度 保育科学研究（社会福祉法人日本保育協会）
 研究代表者：碓氷 ゆかり（関西学院短期大学教授）
 共同研究者：清水 益治（帝塚山大学教授）
 千葉 武夫（関西学院短期大学教授）
 森 俊之（仁愛大学教授）
 岡村 季光（奈良学園大学教授）
 波田 埜 英治（関西学院短期大学教授）
 吉岡 真知子（東大阪大学教授）
 成田 朋子（名古屋柳城短期大学名誉教授）
 青井 夕貴（仁愛大学准教授）
 中島 一（あまのこどもえん副園長）
 （問い合わせ先：yukari-u@kwansei.ac.jp）

令和7年10月

地域子育て支援拠点事業の施設を利用するみなさまへ

「地域子育て支援拠点事業に関する調査研究」アンケート調査のお願い

皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、私たちは、社会福祉法人日本保育協会の令和7年度保育科学研究の補助を受けて、地域子育て支援に関する調査研究を行うこととなりました。

つきましては、研究の一環として下記の通りアンケート調査を実施させていただきたいと存じます。ご多用の折恐縮ではございますが、研究主旨をご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

1. アンケート調査の目的

・地域子育て支援を利用されている方のうち、お子さまのお父様またはお母様を対象に、施設の利用・頻度、利用理由、子どもの様子などについて調査します。

2. 調査票回収について

・記入された調査票は、回答後所定の封筒に入れた後封をして、施設の指定された場所にご提出下さい。

3. 回答の期日

・お忙しいところ恐縮ですが、統計処理の都合上、令和7年11月14日（金）までに提出下さいますようお願い申し上げます。

4. 集計

・アンケート調査は無記名で行いますので、個人が特定されることはありません。

・データはコンピュータにより統計処理をいたします。

・データは、研究代表者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。

・データは、研究代表者が責任をもって厳重に管理し、本研究以外に使用することはありません。

また、研究終了後は10年間保管し、データ消去・調査票の溶解処理等適切な方法で廃棄します。

5. 研究倫理

・この研究は、日本保育協会保育科学研究倫理委員会の承認を受けています。

・アンケート調査の一部またはすべてに回答しなくても不利益を受けることは決してありません。

・得られたデータをもとに、学会発表等を行う予定ですが、個人を特定する形で公表することはありません。

・利益相反は存在しません。

・アンケート調査への回答及び調査票の提出をもって研究協力に同意したこととさせていただきます。

研究組織 「地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児に関する研究」検討委員会

令和7年度 保育科学研究（社会福祉法人日本保育協会）

研究代表者：碓氷 ゆかり（関西学院短期大学教授）

共同研究者：清水 益治（帝塚山大学教授）

千葉 武夫（関西学院短期大学教授）

森 俊之（仁愛大学教授）

岡村 季光（奈良学園大学教授）

波田埜 英治（関西学院短期大学教授）

吉岡 真知子（東大阪大学名誉教授）

成田 朋子（名古屋柳城短期大学名誉教授）

青井 夕貴（仁愛大学准教授）

中島 一（あまのこどもえん理事長）

施設長用

「地域子育て支援拠点事業に関する調査研究」アンケート調査

この調査票では貴施設の概要についてお尋ねします。子どもへの直接的な影響については、保育者用と保護者用の2つの調査票で尋ねています。何卒、よろしくお願いいたします。

問1 貴施設の通常の幼児教育・保育事業の利用定員及び在園児総数についてお答えください。

利用定員_____人 在園児総数_____人

問2 貴施設の運営主体について、選択肢からお選びください。

1. 公営 2. 社会福祉法人 3. 学校法人 4. 株式会社
5. 特定非営利活動法人（NPO） 6. その他（ ）

問3 貴施設で働いている職員数について、雇用形態別、職種別にお答えください。

	有資格者 (保育士、幼稚園教諭、保育教諭等)	その他の職員	その他の内容 (社会福祉士等、その他の資格がある方は資格名をお書きください)
常勤	人	人	
非常勤（フルタイム）	人	人	
非常勤（パート）	人	人	

問4 貴施設では下記の事業を実施していますか。当てはまるものすべて選んでください。

1. 一時保育 2. 休日保育 3. 育児相談 4. 園庭開放 5. 保育体験 6. 子育て相談
7. 子育てサークル 8. 病児保育 9. 放課後クラブ 10. 誰でも通園制度 11. 出張広場
12. その他（ ）

ここからは、貴施設で実施されている「地域子育て支援拠点事業」についてお尋ねします。

問5 地域子育て支援拠点事業に携わっている職員数についてお尋ねします。専ら事業に携わっている職員と他の業務と兼任している職員で分けて、勤務形態・保有している資格種別ごとに、実人数を記入してください。

※ひとりで複数資格を有している場合は、主たる業務に着目して資格を1つ選んでください

	専任		兼任	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
保育士、幼稚園教諭、保育教諭	人	人	人	人
その他の資格（ ）	人	人	人	人
資格なし	人	人	人	人

問6 地域子育て支援拠点事業の内容についてお尋ねします。次の活動内容は、どの程度取り入れていますか。その程度について教えてください。

活 動 内 容	1 ない	2 やや少ない	3 やや多い	4 多い
体を動かす活動（運動遊びなど）				
音楽系の活動（歌を歌うなど）				
見て楽しむ活動（絵本を読むなど）				
製作をする活動（お絵かきなど）				
育児相談				
子育てサークル				

問 7 貴施設での子育て中の親子の交流内容について、次の左右の選択肢のどちらにより当てはまりますか。活動の時間数や利用者数などを総合的に考えて全体的な印象でお答えください。

左	左に当てはまる	右に当てはまる	右
自由に活動することが多い	1 2 3 4		設定されたプログラム活動が多い
保育者からの声かけが少ない	1 2 3 4		保育者からの声かけが多い
少人数での活動が多い	1 2 3 4		大人数での活動が多い
動きが小さい活動が多い	1 2 3 4		動きが大きい活動が多い
親子一緒に活動することが多い	1 2 3 4		親子別々に活動することが多い

問 8 拠点事業利用の子どもと通常保育の子どもとの交流の機会を設けていますか。一緒に行っている活動として当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 朝夕の合同保育
2. ホールや園庭、プール等での遊び場面
3. 散歩
4. 給食・食事の場面
5. 行事やイベント
6. その他（ ）
7. 交流の機会は設けていない

問 9 子育て親子の交流の場の利用者数についてお尋ねします。月間延べ利用人数を以下の内から1つ選んで○をつけてください。

- ア 50 人未満 イ 50 人以上 100 人未満 ウ 100 人以上 300 人未満
エ 300 人以上 500 人未満 オ 500 人以上 1000 人未満 カ 1,000 人以上
(概算値をお書きください。 _____ 人程度)

問 10 子育てに関する相談の件数についてお尋ねします。月間延べ相談件数をお書きください。

_____ 件程度

問 11 子育てや子育て支援に関する講習等についてお尋ねします。講習等はどの程度の頻度で開催していますか。月単位でお答えください。 1 か月に _____ 回程度

問 12 補助金の加算事業として行っている取組のすべてに○をつけてください。

1. 地域の子育て支援活動の展開を図るための取組（一時預かり等）
2. 出張ひろばの開設
3. 高齢者や地域学生等、地域の多様な世代との交流
4. 地域の団体と協働して伝統文化や習慣・行事を実施し、親子の育ちを支援する取組
5. 地域の子育て支援の発掘・育成を継続的に行う取組
6. 利用したくてもできない家庭に訪問支援を行う等、地域とのつながりを持たせる取組
7. 障害児、多胎児のいる家庭など、配慮が必要な子育て家庭等への支援
8. 休日における育児参加促進のための講習会の実施

ご協力いただき、誠にありがとうございました。保育者用、保護者用とともにご返送ください。

支援（保育）担当用

「地域子育て支援拠点事業に関する調査研究」アンケート調査

当該調査は無記名で、結果は全て統計的に処理され、施設名や個人名が特定される形では公表されません。調査は研究目的以外には使用しません。調査への回答は自由意志であり、調査内容の一部または全てに回答しなくても個人の不利益になることはありません。

問1 あなたが担当している利用児の様子についてお尋ねします。利用を始めて間もない子どもと利用回数の多い子どもの姿として、次の姿はどの程度見られますか。項目ごとにいずれか1つの数字に○をつけてください。

	利用を始めて間もない子ども						利用回数の多い子ども					
	全く見られない	見られない	あまり見られない	やや見られる	見られる	よく見られる	全く見られない	見られない	あまり見られない	やや見られる	見られる	よく見られる
①同じ場所（コーナー）でひとりで遊んでいる	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②同じ場所（コーナー）で複数の子どもと遊んでいる	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③遊び場所を頻繁に変えている	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④1つの同じ遊びで、長時間遊んでいる	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑤遊びを変えながら、長時間遊んでいる	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥遊びが頻繁に変わり、1つの遊び時間が短い	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦周囲の子どもと関わって遊んでいる	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑧保護者から離れたがらない	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑨保護者から離れて遊んでいる。	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑩保育者など施設の職員と遊んでいる	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

問2 地域子育て支援拠点事業の取組によって利用児や在園児に次の①から⑩のような影響があったとどの程度思いますか。項目ごとに「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4段階のうち、最も当てはまる数字に○をつけてください。

	利用児					在園児				
	わからない	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う	わからない	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
①新たな人間関係が形成された	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
②新たな遊びや活動が展開した	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
③言葉や発語が促された	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
④食事の習慣が形成された	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
⑤衣服の着脱等の習慣が促された	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
⑥トイレ、排泄の習慣が促された	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
⑦けんかやトラブルが増えた	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
⑧けんかやトラブルが減った	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
⑨職員の関わりが増えた	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4
⑩職員の関わりが減った	0	1	2	3	4	0	1	2	3	4

問3 あなた自身のことについてお尋ねします。どのような資格をお持ちですか。持っている資格の全てに○をつけてください。

1. 保育士 2. 幼稚園教諭 3. 家庭的保育者 4. 子育て支援員
5. 保健師または看護師 6. その他（ ） 7. 資格はない

問4 あなたは、これまでに通常の幼児教育・保育の業務に携わったことがありますか。あるかたはおおよそその経年数を教えてください。 1. ある（ 年） 2. ない

問5 あなたは、これまでに通常の幼児教育・保育事業の業務として、下記の担当をしたことがありますか。担当したことのあるものすべてに○をつけてください。

1. 0歳児担当 2. 1歳児担当 3. 2歳児担当 4. 3歳児担当
5. 4歳児担当 6. 5歳児担当 7. 主任（主幹） 8. 一時保育担当
9. 子育て支援担当 10. フリー 11. いずれも担当したことがない

問6 あなたは、現在、どの程度、拠点事業の業務に携わっていますか。1週間あたりの通算時間として計算すると、おおよそどのくらいの時間ですか。※週によって異なる場合はもっとも多い場合で回答してください。
一週間あたり 時間

問7 この事業の経験年数をお書きください。 年

問8 この1年で受けた研修の回数をお書きください。 園内研修 回 園外研修 回

問9 あなたは、子育て支援員専門研修（地域子育て支援コース）の「地域子育て支援拠点事業」の研修を受講しましたか。 1. はい 2. いいえ

問10 あなたは次のキャリアアップ研修を受けましたか。該当するもの全てに○をつけてください（複数回答可）。

1. 乳児保育 2. 幼児教育 3. 障害児保育
4. 食育・アレルギー対応 5. 保健衛生・安全対策 6. 保護者支援・子育て支援
7. マネジメント 8. 保育実践 9. 受講していない

問11 あなたは次のようなときに、仕事への「やりがい」どの程度感じますか？ 該当する番号を1つだけ選んで○をつけてください。「経験したことがない」場合は、「－」に○をつけてください。

	資質向上意欲のきっかけ	まったく感じない	感じない	あまり感じない	まあまあ感じる	感じる	非常に感じる	いい経験したことがない
1	上司に自分の仕事が認められたとき	1	2	3	4	5	6	－
2	自分の仕事で子どもが喜んだとき	1	2	3	4	5	6	－
3	子どもの成長を感じることができたとき	1	2	3	4	5	6	－
4	保護者から感謝されたとき	1	2	3	4	5	6	－
5	自分に任せられた業務を全うできたとき	1	2	3	4	5	6	－
6	責任の重い仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
7	新しい仕事や役割を任せられたとき	1	2	3	4	5	6	－
8	他の職員との共同で目標が達成できたとき	1	2	3	4	5	6	－
9	給料が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－
10	役職が上がったとき	1	2	3	4	5	6	－

ご協力いただき、誠にありがとうございました。回答後は封筒にいれ封をした上で指定の場所にご提出ください。

保護者用

「地域子育て支援拠点事業に関する調査研究」アンケート調査

※本調査票にある「施設」とは、あなたが利用している施設（子育て支援に関するセンター等）のことを指します。

当該調査は無記名で、結果は全て統計的に処理され、施設名や個人名が特定される形では公表されません。調査は研究目的以外には使用しません。調査への回答は自由意志であり、調査内容の一部または全てに回答しなくても個人の不利益になることはありません。

問1 施設の利用状況についてお答えください。

- (1) いつからこの施設を利用されていますか。 西暦 年 月から
 (2) 現在月にどの程度利用されていますか。 月に 回程度
 (3) この施設を利用する理由についてお尋ねします。現在のあなたは、それぞれの理由についてどの程度そう思いますか。1から6の数字のいずれかに○をつけてください。

		全くそう 思わない	そう 思わない	どちらか と言つと そう 思わない	どちらか と言つと そう 思う	そう 思う	非常に そう 思う
1	この施設に自分の友人がいるから	1	2	3	4	5	6
2	この施設に悩みを気軽に話せる人がいるから	1	2	3	4	5	6
3	この施設で子育てについて相談ができるから	1	2	3	4	5	6
4	この施設で子育てに関する情報が得られるから	1	2	3	4	5	6
5	この施設で保育所・幼稚園・認定こども園の情報が得られるから	1	2	3	4	5	6
6	この施設で子育てに関する講座や講習会を受けられるから	1	2	3	4	5	6
7	自分自身のストレスが解消されるから	1	2	3	4	5	6
8	自分自身の身体的な疲れが解消されるから	1	2	3	4	5	6
9	親同士で交流できるから	1	2	3	4	5	6
10	子どもがこの施設で喜んで遊ぶから	1	2	3	4	5	6
11	子どもが他の子どもと交流できるから	1	2	3	4	5	6
12	子どもが親以外の大人と関わることができるから	1	2	3	4	5	6
13	施設の職員が子どもに関わってくれるから	1	2	3	4	5	6
14	いつでも職員が手助けをしてくれるから	1	2	3	4	5	6
15	親子でこの施設を楽しめるから	1	2	3	4	5	6
16	親子とも、この施設に来ることで安心できるから	1	2	3	4	5	6
17	親子とも、この施設を気軽に利用できるから	1	2	3	4	5	6

問2 お子さまの利用時の様子についてお尋ねします。次の文について「全くあてはまらない」から「非常によく当てはまる」のいずれか1つを選んで○をつけてください。

		全く あては まらない	あて はまら ない	どちらか と言つと あては まらない	どちらか と言つと 当ては まる	当て はまる	非常 によく 当ては まる
1	ひとりで楽しく遊んでいる	1	2	3	4	5	6
2	周囲の子どもと関わって遊んでいる	1	2	3	4	5	6
3	施設の職員と楽しそうに遊んでいる	1	2	3	4	5	6
4	自宅にないおもちゃで遊んでいる	1	2	3	4	5	6
5	自宅にあるのと同じおもちゃで遊んでいる	1	2	3	4	5	6
6	保護者と遊びたがる	1	2	3	4	5	6

問3 お子さまの帰宅後の様子についてお尋ねします。次の文について「全くあてはまらない」から「非常によく当てはまる」のいずれか1つを選んで○をつけてください。

	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらかと言うと当てはまる	当てはまる	非常によく当てはまる
1. 施設でした遊びをするようになる	1	2	3	4	5	6
2. 夕食時にたくさん食べる	1	2	3	4	5	6
3. よく眠る	1	2	3	4	5	6
4. 保護者に甘えたがる	1	2	3	4	5	6
5. 保護者と遊びたがる	1	2	3	4	5	6
6. 施設に行きたがる	1	2	3	4	5	6
7. じっくりと遊びに取り組むようになる	1	2	3	4	5	6
8. 施設のことを話す	1	2	3	4	5	6

問4 地域子育て支援拠点事業を利用することによって、次の①～⑩のような影響があったとどの程度思いますか。項目毎に「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の4段階のうちもっとも当てはまる数字に○をつけてください。

	わからない	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	とてもそう思う
①新たな人間関係が形成された	0	1	2	3	4
②新たな遊びや活動が展開した	0	1	2	3	4
③言葉や発語が促された	0	1	2	3	4
④食事の習慣が形成された	0	1	2	3	4
⑤衣服の着脱等の習慣が促された	0	1	2	3	4
⑥トイレ、排泄の習慣が促された	0	1	2	3	4
⑦けんかやトラブルが増えた	0	1	2	3	4
⑧けんかやトラブルが減った	0	1	2	3	4
⑨保護者との関わりが増えた	0	1	2	3	4
⑩保護者との関わりが減った	0	1	2	3	4

問5 あなた自身とお子さまのことについてお尋ねします。

- あなたの年齢について、当てはまるものに○をつけて下さい。（10歳代・20歳代・30歳代・40歳代以上）
- 現在この施設を利用しているお子さまについてお尋ねします。現時点の年齢（月齢含む）を教えてください。
1人目〔 〕歳〔 〕か月、 2人目〔 〕歳〔 〕か月、 3人目〔 〕歳〔 〕か月
- 子育てに困ったときに助けてくれる人について、当てはまる番号すべてに○をつけて下さい（複数回答可）
1配偶者（パートナー） 2あなたの父母 3配偶者（パートナー）の父母
4あなたのきょうだい 5友人・知人 6その他（ ）
- 子育て支援に関して希望することについて、当てはまる番号すべてに○をつけて下さい（複数回答可）
1土日祝日等の休日の利用ができるとよい 2一時預かりを気軽にできるとよい
3子どもが楽しめるイベントを開催してほしい 4現行の利用時間帯よりも長い時間利用ができるとよい
5公園や屋内外の遊び場など遊べる場所がほしい 6いろいろと相談できるとよい
7現状の施設やサービスがもっと増えてほしい 8他の子どもや大人と交流する経験を積ませたい
9経済的支援がほしい 10その他（ ）

ご協力いただき、誠にありがとうございました。回答後は封筒にいれ封をした上で指定の場所にご提出ください。

【別紙4】

令和7年12月

地域子育て支援拠点事業の施設長様

地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究
ーインタビュー調査についてお願いー

研究代表者：碓氷 ゆかり（関西学院短期大学・教授）

共同研究者：清水 益治（帝塚山大学・教授）

千葉 武夫（関西学院短期大学・教授）

森 俊之（仁愛大学・教授）

岡村 季光（奈良学園大学・教授）

波田埜 英治（関西学院短期大学・教授）

吉岡 眞知子（東大阪大学・名誉教授）

成田 朋子（名古屋柳城短期大学・名誉教授）

青井 夕貴（仁愛大学・准教授）

中島 一（あまのこどもえん・理事長）

謹啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、地域子育て支援拠点事業（以下、事業）は、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場として、全国に活動が広がっております。しかし、事業が子どもにどのような影響を与えているのか、実証的な研究はまだ途上にあります。

そこで、私たちは、日本保育協会より、2025（令和7）年度に保育科学研究の実施承認を受け、調査を実施することとなりました。本調査は、保護者が事業を利用することで子どもにどのような影響があるかを明らかにすることを目的としています。

このインタビューでは、貴施設における事業の支援者（保育担当者）と事業を頻繁に利用する保護者の方に、別紙「インタビュー調査説明書」の倫理的配慮に基づき尋ねる予定です。調査にご協力いただける保育担当者と保護者をそれぞれご紹介いただければと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

謹白

本研究における連絡先

研究代表者：碓氷 ゆかり

（関西学院短期大学・教授）

【別紙5】

地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究
インタビュー調査説明書

以下の研究の目的や実施内容等をご理解いただき、本研究に研究協力いただける場合は、同意書にご署名をお願いいたします。

1. 研究の目的

本調査は、社会福祉法人日本保育協会の保育科学研究の補助を受けて、保護者が事業を利用することで子どもにどのような影響があるか調査を行うことを目的としています。

2. 研究方法

お1人につき10分程度のインタビューをさせていただきます。インタビューはICレコーダーで録音、逐語録を作成して分析します。

3. 研究協力

途中でお辞めになる場合には、いつでもお申し出ください。お断りや一度研究協力を決めてから途中でお辞めになっても、不利益は生じません。研究協力するかどうかは自由です。

4. 質問への回答

もしお話しになりたくない場合は、無理にお話しをいただかなくて結構です。

5. 個人情報、研究データの取り扱い

お話しいただいた内容（録音データ、逐語録）は研究目的（学会発表や論文公表）以外に用いることはなく、秘密を守ることをお約束いたします。

6. 研究者、および問い合わせ先

本研究は、以下の者が研究代表者として行ないます。研究内容に関するご質問は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究代表者：碓氷 ゆかり（関西学院短期大学・教授）

【別紙6】

関西学院短期大学
碓氷 ゆかり 様

地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究
研究協力にあたっての同意書

私は、「地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究」について、インタビュー調査説明書の以下の事項について文書及び口頭で説明を受けました。

研究の目的、方法等について理解し、自らの自由意思により研究協力いたします。

1. 研究の目的
2. 研究方法
3. 研究協力
4. 質問への回答
5. 個人情報、研究データの取り扱い
6. 研究者、および問い合わせ先

日付： 西暦 年 月 日

氏名（署名）_____

説明者_____

連絡先

研究代表者：碓氷 ゆかり（関西学院短期大学・教授）

【別紙7】

関西学院短期大学
碓氷 ゆかり 様

地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究
研究協力に関する同意撤回書

私は、「地域子育て支援拠点事業の利用児と在園児への影響に関する研究」の調査協力に同意しました。しかし、都合により、調査協力への同意を撤回します。

【同意を撤回する範囲】該当箇所のいずれかの数字に1つ○をつけて下さい。

1. 全てのデータ、および今後のインタビュー
2. 一部のデータ、および今後のインタビュー
* 撤回するデータについて、以下に具体的にご記入下さい。
3. 今後のインタビュー（これまでのインタビューデータは同意撤回しません）

日付： 西暦 年 月 日

氏名（署名）

説明者

連絡先

研究代表者：碓氷 ゆかり（関西学院短期大学・教授）

【別紙 8】

インタビューシート（支援（保育）担当者用）

実施日（ 月 日）ID 番号（ ） インタビュアー・記録者（ ）

比較的利用頻度の高い子どもを 1 人想定してください。
その子どもの年齢と、施設の利用についてお尋ねします。

1. 子どもは何歳何か月ですか。 歳 か月

2. この施設はいつから、どの程度利用されていますか。
利用開始年月 年 月から利用
利用頻度 1 か月に 回程度

この子育て支援施設の利用による子どもの様子やその変化についてお尋ねします。

3. 最近のその子どもの生活や遊びは、どのような様子ですか

4. 利用しはじめた頃のその子どもの生活や遊びは、どのような様子でしたか

5. 利用開始から今までで、その子どもにどのような育ちの変化がありましたか。5 領域の各領域について教えてください。
健康領域（基本的生活習慣を含む）

人間関係領域（対大人、対子ども）

環境領域（ものやこととのかかわり）

言葉領域

表現領域

その他

6. 利用開始から今までで、その子ども以外の他の子どもにどのような育ちの変化がありましたか。5 領域の各領域について教えてください。
健康領域（基本的生活習慣を含む）

人間関係領域（対大人、対子ども）

環境領域（ものやこととのかかわり）

言葉領域

表現領域

その他

【別紙9】

インタビューシート

実施日（ 月 日）ID 番号（ ） インタビュアー・記録者（ ）

※事前に保護者用の調査票への回答を求める。

最初に、お子さんの年齢と、この施設の利用についてお尋ねします。

1. お子さんは何歳何か月ですか。 歳 か月

2. この施設はいつから、どの程度利用されていますか。

利用開始年月 年 月から利用。 年 か月間

利用頻度 1 か月に 回程度

この子育て支援施設の利用によるお子さんの様子やその変化についてお尋ねします。

3. 最近、利用しているときのお子さんの遊びは、どのような様子ですか

4. 利用しはじめた頃にお子さんの遊びは、どのような様子でしたか

5. 最近、利用した日の帰宅後のお子さんは、どのような様子ですか

6. 利用しはじめた頃の帰宅後のお子さんは、どのような様子でしたか

7. 育ちという点で、この施設の利用で、お子さんはどのように変わったと思いますか。